

# ルート181

パレスチナ-イスラエル  
旅の断章

監督 ミシェル・クレイフィ, エイアル・シヴァン / Directors : Michel Khleifi & Eyal Sivan  
日本語字幕 / English subtitles

2005年 山形国際ドキュメンタリー映画祭最優秀賞受賞

待望の京都再上映！



2014年2月8日(土)

開始：11:00 (10:30 開場)

終了：18:00 (上映時間 4 時間 30 分、途中昼食/休憩あり)

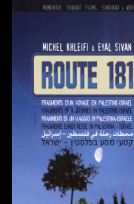
※上演終了後、田浪亜央江さんによる講演、会場との質疑応答

会場：立命館大学衣笠キャンパス 充光館 301 教室

参加費：無料

★前夜祭企画！『豊穡な記憶』上映会

2月7日(金) 17:30~19:20 (開場17:00) 立命館大学衣笠キャンパス充光館301 教室 参加費無料



共催：立命館大学先端総合学術研究科 2013 年度院生プロジェクト「映画を通じて問いなおす“記憶”の形成」  
立命館大学生存学研究センター

協力：生存学研究センター若手研究者研究力強化型「祝祭の多角的再考から導く共生研究」

## ◆ルート 181 とは

1947年11月29日、国連によるパレスチナ分割決議 181 が採択され、パレスチナの土地の56%を当時の人口比で3割に達していたユダヤ人に、43%の土地を7割のパレスチナ人に与え、残りのエルサレム、ベツレヘムを含む地域を国際管理下に置くこととされた。実際にそれは国境線になることはなく、ユダヤ人による領土拡張は進められ、その過程で約100万人のパレスチナ人が難民となった。2002年夏、ミシェル・クレイフィとエイアル・シヴァンの二人の監督は、その当時の分割線を「ルート181」と名づけ、その道を車で走りながらカメラをまわした。そして、「ルート181」は、私たちの目に晒された。

## ◆なぜ今、『ルート181』なのか…

「この国(イスラエル)は、さまざまな神話や記憶を動員することにより、絶え間なく創造され続けているのです。… 通常、「記憶」は「忘却」に対置されますが、ここでは「記憶」そのものが「忘却」のプロセスなのです。」共同監督の一人であるエイアル・シヴァンはイスラエルをこう語る。記憶と忘却のプロセスは決して中東に限られた問題ではない。新たな記憶と同時に、過去を忘却しきれない民は「記憶」と「忘却」の狭間で自己の引き裂きを経験するのかもしれない。その引き裂きが人々の「生」にいかにか影響してきたのか、その引き裂きを、人は自らの生の中で、どのように引き受けてきたのか、今、改めて『ルート181』映像から考えてみたい。

もう一人の共同監督であるミシェル・クレイフィは、監督デビュー作『豊穡な記憶』以来、常に民衆の日常生活に向きあう表象活動を試みている。丹念に撮影され編集された映像から見えてくるものは、国民国家や植民地主義の「大きな語り」に回収されない記憶や語りであろう。威勢のいい大きな語りばかりが聞こえてくる今、この映画が問いかけるものは何か、見る側の思考を喚起させてみたい。

---

## プログラム

### ●2月7日(金) 〈前夜祭〉

#### 『豊穡な記憶』上映会

ミシェル・クレイフィ初監督作品

81年カンヌ映画祭 批評家週間出品)

17:00 開場

17:30 上映開始 (17:00 開場)

19:20 上映終了

### ●2月8日(土)

#### 『ルート181』上映会

10:30 開場

11:00~12:25 第一部 上映

昼食休憩

13:15~15:00 第二部 上映

休憩

15:15~16:40 第三部 上映

16:40~17:40 田浪亜央江さん 講演

17:40~18:00 質疑応答

18:00 終了

18:30~ 懇親会

#### 講師紹介：田浪亜央江さん

成蹊大学非常勤講師(パレスチナ文化研究)。

インパクション編集委員を長く務め、市民グループ

「ミーダーン〈パレスチナ・対話のための広場〉」

において中心的な活動をしている。

## ◆連絡・問い合わせ先◆

立命館大学リサーチオフィス(衣笠) 生存学研究センター事務局

電話/075-465-8475 FAX/075-465-8245

E-mail/ars-vive@st.ritsumei.ac.jp